

# 南吉童話のオノマトペを語彙と形式から考える

濱千代 いづみ

## 1. はじめに

オノマトペは国語科教育で教材の内容理解の鍵となり、朗読に際して高低・強弱・遅速などの発声技術が施される部分になる重要な語群である。濱千代（2013）では南吉童話35作品に見られるオノマトペの語彙を計量して整理し、多用されるものを抽出して主に語彙と用法の観点から特色を把握し、作品の内容との関係を考察した。本稿ではまずオノマトペ語彙辞典の見出し語や記述と比較し、濱千代（2013）の結論を補強する。続いて形式による分類を行い、多用される形式、促音・撥音・長音等のオノマトペ標識の有無、拍数の多寡という観点から分析し、南吉童話におけるオノマトペの形式の特色を探求する。

## 2. オノマトペ語彙辞典による調査

南吉の作品から取り出したオノマトペが一般に使用されるものかを見るために、オノマトペの語彙辞典を調査し、見出し語として辞典に採録されているかどうかを見た。現在刊行されていて容易に入手できる辞典として次の3つの書を使用した。

『現代擬音語擬態語用法辞典』・・・略称〈現代〉

『暮らしのことはば 擬音・擬態語辞典』・・・略称〈暮ら〉

『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』・・・略称〈オノ〉

[見出し語として語彙辞典に有るかどうかの基準]

ア) 語彙辞典に見出し語として有る場合は○、無い場合は×とする。

イ) 3拍以上の語の反復形は語彙辞典に反復でない形がある場合は○とする。

(例) 見出し語「きらり」 反復形「きらりきらり」

ウ) 〈現代〉では見出し語になくても同族にあがっていたり、用例や解説でとりあげてあったりするものは○とする。

(例) 見出し語「ぎよろぎよろ(っ)」 同族「ぎよろり」

見出し語「ふーっ」 用例(1)①「ふうーっ」

解説「ふ(う)ーっ」は一息で全部の息を吐ききる音や様子を表す。

エ) 〈暮ら〉では見出し語になくても類義語にあがっていたり、用例や参考の説明でとりあげてあったりするものは○とする。

(例) 見出し語「ひょっくり」

参考の説明「ひょっくりひょっくり」は首を突きだして歩くようす。

見出し語「ばたばた」 類義語「ばたっ」

見出し語「わんわん」 用例①「…此奴め、ワンワンワン」

オ) 〈オノ〉では見出し語になくても用例でとりあげてあるものは○とする。

(例) 見出し語「あはは」 用例「アハハハハ」

調査には『校定 新美南吉全集』を用いる。調査対象は以下の35作品である。

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| [1] 「赤い蠟燭」        | [2] 「二ひきの蛙」       |
| [3] 「はな」          | [4] 「カタツムリノウタ」    |
| [5] 「王さまと靴屋」      | [6] 「子供のすきな神さま」   |
| [7] 「去年の木」        | [8] 「一年生たちとひよめ」   |
| [9] 「里の春、山の春」     | [10] 「落した一銭銅貨」    |
| [11] 「狐のつかひ」      | [12] 「蟹のしやうばい」    |
| [13] 「ひとつの火」      | [14] 「あし」         |
| [15] 「売られていった靴」   |                   |
| [16] 「飴だま」        | [17] 「手袋を買ひに」     |
| [18] 「権狐」草稿       | [19] 「おぢさんのランプ」   |
| [20] 「うた時計」       | [21] 「川」B         |
| [22] 「嘘」          | [23] 「ごんごろ鐘」      |
| [24] 「久助君の話」      | [25] 「貧乏な少年の話」    |
| [26] 「小さい太郎の悲しみ」  | [27] 「草」          |
| [28] 「狐」          | [29] 「牛をつないだ椿の木」  |
| [30] 「耳」          | [31] 「疣」          |
| [32] 「百姓の足、坊さんの足」 | [33] 「和太郎さんと牛」    |
| [34] 「花のき村と盗人たち」  | [35] 「鳥右エ門諸国をめぐる」 |

南吉童話35作品に見られるオノマトベの異なり語数は355である。これらが語彙

辞典に見出し語として存在するかどうかを整理して示すと次のようになる。

表1 語彙辞典における立項の有無

有無\辞典	〈現代〉	〈暮ら〉	〈オノ〉	異なり語	
3つに有り	○	○	○	2 6 2	2 6 2
2つに有り	×	○	○	2 3	3 7
	○	×	○	1 2	
	○	○	×	2	
1つに有り	×	×	○	1 2	2 4
	×	○	×	4	
	○	×	×	8	
3つに無し	×	×	×	3 2	3 2
	2 8 4	2 9 1	3 0 9	3 5 5	

語彙辞典すべてに見出し語として採録されているのは262語で、全体の74%に相当する。また、どれか1つにでも採録されているものの累計は「3つに無し」を除く323語になるので、91%に相当する。異なり語数の面から見ると、南吉の作品から取り出したオノマトペは一般に使用されるものであるといえよう。語彙辞典の中でも〈オノ〉は採録数が多い。<sup>(注1)</sup>ここで問題になってくるのは、どの語彙辞典にも立項されていない語群「3つに無し」である。次の章でそれらを取り上げ、分析を試みる。

### 3. 語彙辞典に見出し語のないオノマトペ

南吉の作品には使われているが、3つの語彙辞典に見出し語のないオノマトペは次の表2のとおりである。

表2 語彙辞典に見出し語のないオノマトペ

番号	見出し語	使用度数	対象	形式	作品番号
1	くっくっくっ	4	声	a ッ a ッ a ッ	[22] [22] [34] [34]
2	ぼけん	4	容	a b ン	[21] [24] [28] [34]

3	ひゃらひゃら	3	音	a b a b	[34] [34] [34]
4	うーう	2	音	a - a	[22] [22]
5	ぱりーん	2	音	a b - ン	[19] [19]
6	くしんくしん	2	声	a b ン a b ン	[32] [32]
7	ころろ	2	音	a b b	[18] [18]
8	じゅーん	2	音	a - ン	[31] [31]
9	もく	1	音	a b	[18]
10	がおーんん	1	音	a b - ンン	[23]
11	きーい	1	音	a - イ	[31]
12	ぎゃおぎゃお	1	音	a b a b	[32]
13	きゅろきゅろ	1	音	a b a b	[23]
14	ごんごろごろ	1	音	a ン a b a b	[23]
15	じーじーじーい	1	音	a - a - a - イ	[34]
16	じゃばっ	1	音	a b ッ	[30]
17	すっぼん	1	音	a ッ b ン	[19]
18	てんとん	1	音	a ン b ン	[35]
19	とぶんとぶん	1	音	a b ン a b ン	[2]
20	とほとほ	1	音	a b a b	[19]
21	とぼん	1	音	a b ン	[18]
22	ひえっ	1	音	a b ッ	[29]
23	ひゅーひゃらりゃりゃ	1	音	a - b c d d	[28]
24	うふうふん	1	声	a b a b ン	[22]
25	うふっふっふっ	1	声	a b ッ b ッ b ッ	[22]
26	ひあっ	1	声	a b ッ	[24]
27	ふえーん	1	声	a b - ン	[22]
28	ぐわっ	1	容	a b ッ	[31]
29	すてんころり	1	容	a b ン c d リ	[25]
30	すとすと	1	容	a b a b	[25]
31	つるんこ	1	容	a b ンコ	[12]
32	ぼーい	1	容	a - イ	[29]

南吉の作品には使われているが、語彙辞典に見出し語のないオノマトペは全部で32語である。使用度数が2以上のものは8語で、その作品番号を見ると「ぼけん」を除く7語が同じ作品で繰り返し使われている。音を対象とするものが20語、声を対象とするものが6語、容を対象とするものが6語であるので、音を対象とする場合が多く、全体の三分の二に相当する。

表2の見出し語が人々の間で抽象的・普遍的に通用しない、南吉に特有のものかどうかを判断するために、番号ごとに例文を1例ずつ引用して示すことにする。

- 1 すると彼女は何かをかしい返事を聞いたのだらう、突然クッククックと笑ひ出した。  
[22]
- 2 あがつて来ても彼は、ペソをかけた顔付で、ぼけんとつつ立つてゐるので、[21]
- 3 角兵エは獅子まひのやうに笛をヒヤラヒヤラ鳴らし、
- 4 「うーう」と、モートルの唸つてゐるみたいな音がはじめ聞えた。  
(モートルはモーターのこと、著者注。)
- 5 (ランプは) パリーンと音がして、大きい火がひとつ消えた。
- 6 清造はくしんくしんと泣きました。
- 7 こほろぎが、ころろ、ころろと、洞穴の入口で時々鳴きました。
- 8 タオル蒸しが、ひとりで、ジューン、ジューンと湯気をふいてゐました。
- 9 「モク、モクモク、モクモク」と木魚の音がしてゐました。  
(注2)
- 10 最後に吉彦さんがじぶんで、大きく大きく撞木を振つて、がオオンん、とついた。
- 11 腰掛が、キーイとかすかな音を立てて、うしろへたふれていきました。
- 12 とつぜん門内で、ぎやおぎやおとさわがしい音がしたときには、そら和尚さんの足が痛み出したと思つて、…のら犬が境内で喧嘩をただけのことだとわかつて、
- 13 塀の外をきゆるきゆると鳴つてゆく乳母車の音をきいてゐた。
- 14 ごんごろ鐘がはたしてごんごろごろと鳴るかどうか試しにいつたことがある。
- 15 松林では松蟬が、ジイジイジイと鳴いてゐました。
- 16 久助君はあはてて、(風呂から) ぢやばツと外に出た。
- 17 すつぽんと煙管筒をぬきながら、
- 18 (鍛冶屋で) 鳥右エ門は真黒になつて、親方と向かひあつて立ち、てんとんと、かなしきの上をたたきました。
- 19 そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんととびこみました。
- 20 春祭の支度に打つ太鼓がとほとほと聞えて来た。

- 21 どの魚も、「とぼん!」と音を立てながら、にごつた水の中に見えなくなりました。
- 22 家の中から、ひえつといふひどいしやつくりの音がきこえて来ました。
- 23 かそかな春の夜風につて、ひゆうひやりりやりやと笛の音が聞えて来ました。
- 24 久助君も、その泣声をきいてみると泣きたくなくて来たので、「うふうふん」と変な泣出し方だったが、はじめた。
- 25 彼女はなんども（笑うことを）やりなほした。「クッククック」とか、「ウフッフッフ」とかいつて。
- 26 くすぐつたいのとつぜんひあつといふやうな声をあげて笑ひだした。
- 27 つづいて加市君がひゆつと息を吸ひこんで「ふえーん」とうまく泣出した。
- 28 そのバリカンはまだ五六年前から、ひどく調子がわるく、ときどき、ぐわツと大きく嘯みついて、
- 29 人は、つまづいてすてんころりとぶざまに転んだりすると、
- 30 その人は少年のやうにすとすとと畠中を走つて運んでゐた。
- 31 （たこは）なるほど毛はひとすぢもなく、つるんこでありました。
- 32 金平糖を一掴みとり出すと、そのうちの一つをぼおいと上に投げあげ、口でぱくりと受けとめました。

語彙辞典に見出し語のないオノマトペを文脈の中において眺めてみると、どれもよく納まっている。どんな音、どんな声、どのような様子であるかを理解しかねるというものはない。「ぱりーん」「すてんころり」<sup>(注3)</sup>などのように我々が日常生活の中で用いているものもある。

濱千代（2013）では南吉童話に見られるオノマトペの語彙を計量的な面から整理して多用されるものを抽出し、それらが生活の中でよく見かけるもので、用法も特殊ではないことを解明した。本稿では語彙辞典に見出し語のないオノマトペを抽出して南吉童話のオノマトペの特色を把握しようと試みた。その結果は濱千代（2013）の結論を補強するものとなった。

以上をまとめると次のことが指摘できる。

- (a) 語彙辞典に見出し語のないオノマトペは音を対象とする場合が多く、全体の三分の二に相当する。
- (b) 語彙辞典に見出し語のないオノマトペであっても、文脈の中で理解できるものがあり、作家が創造した特別なものではない。

#### 4. 南吉童話に見られるオノマトペの形式

日本語のオノマトペでは、「ふっ」「ころり」の中の「ふ」「ころ」のような基本となる部分に「っ」「り」のような音韻を伴うことが多い。本稿では拍を単位にしてオノマトペの形式を捉え、基本となる部分を基本部分と呼び、基本部分に伴う促音、撥音、長音、「り」「い」をオノマトペ標識と呼ぶことにする。<sup>(注4)</sup>原則として次のような方法でオノマトペの形式を表す。

[オノマトペの形式の表し方]

ア) 基本部分について一拍を単位として、かなの代わりにアルファベットで示す。

(例) からから a b a b

イ) オノマトペ標識は次のように示す。

①促音、長音、撥音は「ッ」「ー」「ン」で示す。

(例) からっ a b ッ、 びー a ー、 ちゃん a ン

②語尾の「り」「い」は「リ」「イ」で示す。

(例) にやり a b リ、 ふい a イ

南吉童話35作品に見られるオノマトペの形式を[オノマトペの形式の表し方]によって表し、それらを整理すると次のようになる。各形式に異なり語数・延べ語数を、各語に使用度数を付けて示す。

##### 【オノマトペの形式による分類一覧】

A形式：基本部分が1拍(a)、あるいはその反復で表せるもの

2拍

(1) a ッ 異語 19、延べ語 85

かっ1、きっ23、きゅっ3、ぎゅっ2、くっ1、さっ3、じっ17、すっ2、ずっ2、そっ7、だっ1、つつ1、どっ3、ぱっ2、ひゅっ3、ひょっ2、ふっ1、ほっ6、わっ5

(2) a ー 異語 2、延べ語 2

びー1、ぼー1

(3) a ン 異語 7、延べ語 18

こん3、しん2、ちゃん7、どん2、ぴん2、ほん1、ほん1

(4) a イ 異語 5、延べ語 10

ぐい1、つい1、ひょい1、びょい2、ふい5

3拍

(5) a a a 反復 異語 1、延べ語 1

ふふふ 1

(6) a ッ a 反復 異語 2、延べ語 7

さっさ 3、せっせ 4

(7) a - a 反復 異語 1、延べ語 2

うーう 2

(8) a - ッ 異語 9、延べ語 12

かーっ 2、さーっ 2、ざーっ 1、ずーっ 1、そーっ 2、たーっ 1、ぱーっ 1、ふーっ 1、  
わーっ 1

(9) a - ン 異語 10、延べ語 26

かーん 2、ごーん 7、しーん 1、じーん 4、じゅーん 2、ちーん 1、ぴーん 1、  
ぶーん 1、ぼーん 3、ぽーん 4

(10) a イ ッ 異語 1、延べ語 1

ぐいっ 1

(11) a - イ 異語 2、延べ語 2

きーい 1、ぼーい 1

4拍

(12) a ッ a ッ 反復 異語 3、延べ語 5

くっくっ 3、ちょっちょっ 1、ぱっぱっ 1

(13) a - a - 反復 異語 6、延べ語 7

しゅーしゅー 1、ぜーぜー 1、ひゅーひゅー 1、びゅーびゅー 1、ふーふー 2、ほーほー 1

(14) a ン a ン 反復 異語 14、延べ語 28

うんうん 1、かんかん 1、ぐんぐん 4、ちんちん 2、とんとん 3、どんどん 4、  
ばんばん 3、ぴょんぴょん 1、ぴんぴん 1、ぶんぶん 1、ぶんぶん 2、ほんほん 2、  
ごんごん 2、ふんぶん 1

(15) a イ a イ 反復 異語 2、延べ語 3

ちょいちょい 2、ぶいぶい 1

(16) a - - ッ 異語 3、延べ語 4

はーっ 1、ふーっ 1、ぶーっ 2

(17) a - - ン 異語 1、延べ語 1

がーーん 1



6拍

(18) a ッ a ッ a ッ 反復 異語 1、延べ語 4

くくくくく 4

(19) a ン a ン a ン 反復 異語 1、延べ語 1

わんわんわん 1

(20) a ー n a ー n 反復 異語 2、延べ語 2

びーんびーん 1、わーんわーん 1

7拍

(21) a ー a ー a ー i 反復 異語 1、延べ語 1

じーじーじーい 1

8拍

(22) a ー ー ッ a ー ー ッ 反復 異語 1、延べ語 1

はーーっはーーっ 1

AB形式：基本部分が2拍（a b）、あるいはその反復で表せるもの

2拍

(1) a b 異語 2、延べ語 3

あは 2、もく 1

3拍

(2) a b ッ 異語 15、延べ語 17

からっ 1、がばっ 2、ぐわっ 1、ごくっ 1、じゃばっ 1、すくっ 1、ちらっ 1、  
どきっ 1、ぱくっ 1、ばたっ 1、ひあっ 1、ひえっ 1、びくっ 1、ひやっ 1、べろっ 2

(3) a ッ b 異語 2、延べ語 3

すっく 1、すっば 2

(4) a b ン 異語 17、延べ語 25

きょろん 1、けろん 1、ごつん 1、しょぼん 3、とぼん 1、どぼん 1、ばしゃん 1、  
ばちん 2、ばちゃん 1、ぴしゃん 1、ひょこん 1、ぴょこん 2、ぺこん 1、べしゃん 1、  
ぼかん 2、ぼけん 4、ぼつん 1

(5) a b リ 異語 24、延べ語 38

からり 1、ぎょろり 1、きらり 2、くすり 1、くるり 2、ぐるり 1、けろり 1、  
ことり 1、ころり 2、ごろり 1、すらり 1、ちくり 5、ちらり 1、どきり 1、  
にこり 1、にやり 2、ぱくり 1、ばたり 2、びしり 1、ぴょくり 1、ぶくり 1、

ふわり 1、ぺろり 6、ぼろり 1

(6) a b b 異語 1、延べ語 2

ころろ 2

4拍

(7) a b a b 反復 異語 110、延べ語 197

うかうか 1、うずうず 2、うとうと 1、うねうね 1、うろうろ 1、おどおど 2、  
かさかさ 2、がさがさ 1、かちかち 2、がつがつ 1、がみがみ 2、からから 2、  
がらがら 2、かりかり 1、ぎゃおぎゃお 1、きゅろきゅろ 1、きよろきよろ 4、  
ぎよろぎよろ 1、きらきら 2、ぎりぎり 1、くすくす 1、ぐずぐず 2、くたくた 2、  
くつくつ 3、ぐつぐつ 1、くるくる 1、ぐるぐる 1、げらげら 3、ごしごし 2、  
こせこせ 1、ごそごそ 3、こつこつ 1、ごつごつ 2、ことこと 1、ごとごと 1、  
ごぼごぼ 1、ころころ 2、ごろごろ 2、さらさら 1、しくしく 1、しげしげ 1、  
じゃばじゃば 1、じりじり 1、すいすい 1、すごすご 1、すとすと 1、するする 1、  
そろそろ 1、たじたじ 1、だぶだぶ 1、ちらちら 4、つかつか 2、つやつや 1、  
つるつる 1、てかてか 1、てくてく 1、てらてら 1、どたどた 1、とほとほ 1、  
とぼとぼ 1、どやどや 1、なみなみ 1、にこにこ 19、にやにや 3、ぬるぬる 2、  
のろのろ 4、ぱくぱく 1、ばたばた 1、ぱちぱち 1、ぱちぱち 1、ばらばら 1、  
ぴかぴか 7、びくびく 1、びくびく 2、ひそひそ 2、ひたひた 2、ひちひち 1、  
ひやらひやら 3、ぶつぶつ 2、ふらふら 2、ぶらぶら 1、ぶるぶる 1、へたへた 1、  
べたべた 1、へとへと 1、ほかほか 1、ぼかぼか 3、ほくほく 1、ぼこぼこ 1、  
ぼつぼつ 1、ぼとぼと 2、ぼりぼり 1、ほろほろ 1、まざまざ 2、まじまじ 4、  
みしみし 2、むくむく 1、むずむず 1、むにゃむにゃ 1、めちゃめちゃ 2、もくもく 2、  
もぐもぐ 2、もじもじ 1、もじゃもじゃ 2、ゆらゆら 1、よちよち 2、よぼよぼ 8、  
よれよれ 1、よろよろ 3、わくわく 2

(8) a b ッ 異語 1、延べ語 1

ふわっ 1

(9) a b ーン 異語 4、延べ語 10

ふえーん 1、どかーん 5、どぼーん 2、ぱりーん 2

(10) a ッ b ン 異語 2、延べ語 4

すっぼん 1、ちょっきん 3

(11) a ッ b リ 異語 32、延べ語 150

うっかり 1、うっとり 1、がっかり 10、ぎっしり 1、きっぱり 11、ぐっしょり 2、

ぐったり 1、こっそり 6、ごっそり 2、さっぱり 4、しっかり 7、しっくり 1、  
じっとり 1、すっきり 7、すっぱり 2、ちょっぴり 1、どっかり 1、どっさり 4、  
どっしり 1、にっこり 1、はっきり 19、ぱったり 4、ぱっちり 1、びっくり 33、  
ひっそり 10、びったり 4、ひょっくり 1、ひょっこり 1、ぼつたり 1、むっくり 1、  
むつつり 1、ゆっくり 9

(12) a n b リ 異語 4、延べ語 18

うんざり 2、げんなり 1、ぼんやり 14、やんわり 1

(13) a b n + コ 異語 1、延べ語 1

つるんこ 1

(14) a n b n 異語 1、延べ語 1

てんとん 1

5 拍

(15) a b a b ッ 反復 異語 1、延べ語 1

みしみしっ 1

(16) a b a b n 反復 異語 1、延べ語 1

うふうふん 1

(17) a b - n n 異語 1、延べ語 1

がおーんん 1

(18) a b b b b 異語 1、延べ語 1

あはははは 1

6 拍

(19) a b ッ a b ッ 反復 異語 1、延べ語 1

ちらっちらっ 1

(20) a b n a b n 反復 異語 10、延べ語 12

かたんかたん 1、きょろんきょろん 2、くしんくしん 2、けろんけろん 1、

ごんごん 1、どかんどかん 1、とぶんとぶん 1、どぼんどぼん 1、

ぴょこんぴょこん 1 ぶらんぶらん 1

(21) a b リ a b リ 反復 異語 9、延べ語 13

きりりきりり 1、ぐるりぐるり 1、ずぼりずぼり 1、そろりそろり 3、にやりにやり 1、

ぺろりぺろり 2、ぼつりぼつり 1、むくりむくり 2、ゆらりゆらり 1

(22) a - b a - b 反復 異語 1、延べ語 1

ぐるぐる 1

(23) a n a b a b 異語 1、延べ語 1

ごんごろごろ 1

(24) a ッ b リ + カン 異語 1、延べ語 1

ひっそりかん 1

7 拍

(25) a b ッ b ッ b ッ 異語 1、延べ語 1

うふっふっふっ 1

8 拍

(26) a ッ b リ a ッ b リ 反復 異語 3、延べ語 4

こっくりこっくり 2、ひょっくりひょっくり 1、ゆっくりゆっくり 1

(27) a n a n b n b n 異語 1、延べ語 1

ぴんぴんぺんぺん 1

その他の形式：A 形式、A B 形式に入らないもの

(1) a b c b 異語 5、延べ語 6

じたばた 1、ちぐはぐ 1、どぎまぎ 2、どさくさ 1、めちゃくちゃ 1

(2) a b c b d ー 異語 1、延べ語 1

とてちてたー 1

(3) a b c d 異語 2、延べ語 5

ばちくり 2、ぶつくさ 3

(4) a ー b c d d 異語 1、延べ語 1

ひゅーひゃらりゃりゃ 1

(5) a b n c d リ 異語 1、延べ語 1

すてんころり 1

(6) a b n c d n 異語 1、延べ語 1

かたんことん 1

(7) a n a b c n 異語 1、延べ語 2

ちんちろりん 2

(8) a n b リ c ッ d リ 異語 1、延べ語 1

しんねりむつつり 1

## 5. 【オノマトベの形式による分類一覧】の分析

### 5. 1 オノマトベ標識の有無

まず、この分類一覧の形式をオノマトベ標識の有無によって整理し、形式数を数えることにする。ひとつの形式に複数の異なる標識がある場合はそれぞれの標識で1形式とするが、ひとつの形式に複数の同じ標識があっても、その標識で1形式とするという方法で数える。

(例) a ン b リ a ッ b リ 撥音1、促音1、「リ」1

結果は次のとおりである。

表3 オノマトベ標識の有無による整理

分類	形式数	促音	撥音	長音	「リ」	「イ」	無し
A	2 2	8	6	1 1	0	4	1
AB	2 7	9	1 1	4	5	0	4
その他	8	1	4	2	2	0	2

A形式では長音を持つ形式が多い。全部のA形式2 2に対し、長音を持つ形式1 1は5 0%にあたる。AB形式・その他の形式では撥音を持つ形式が多い。全部のAB形式2 7に対し撥音を持つ形式1 1は4 1%に、その他の形式では8に対し4は5 0%にあたる。A形式では「イ」を持つ形式があり、AB形式・その他の形式では「リ」を持つ形式がある。

### 5. 2 異なり語数・延べ語数の多いもの

次に、分類一覧の形式を異なり語数・延べ語数の多いものから順に並べ、上位のものをあげる。全体の異なり語数は3 5 5、延べ語数は7 5 0である。

表4 異なり語数の多い形式

異語順	形式	異語	延べ語	異語順	形式	異語	延べ語
1	a b a b	110	197	7	a ン a ン	14	28
2	a ッ b リ	33	151	8	a ー ン	10	26
3	a b リ	24	38	9	a b ン a b ン	10	12
4	a ッ	19	85	1 0	a b リ a b リ	9	13
5	a b ン	17	25	1 1	a ー ッ	9	12
6	a b ッ	15	17				

表5 延べ語数の多い形式 (★印は表4にもあがっている形式)

延べ語順	形式	異語	延べ語	延べ語順	形式	異語	延べ語
1	a b a b★	110	197	6	a ー ン★	10	26
2	a ッ b リ★	33	151	7	a b ン★	17	25
3	a ッ★	19	85	8	a ン	7	18
4	a b リ★	24	38	9	a ン b リ	4	18
5	a ン a ン★	14	28	10	a b ッ★	15	17

異なり語数・延べ語数ともに極めて多い形式は a b a b と a ッ b リである。それに続いて a b リ、a ッがかなり多いことがわかる。そのほかに a b ン、a b ッ、a ン a ン、a ー ンが共通に上位にあがっている。

a b a b 形式は異なり語数全体の 31%、延べ語数全体の 26% にあたる。また、a ッ b リ形式は異なり語数全体の 9%、延べ語数全体の 20% にあたる。この 2 形式は南吉童話のオノマトペの代表的形式である。

異なり語数で上位にあるが延べ語数でそうでないのは a b ン a b ン、a b リ a b リ、a ー ッの 3 形式で、使用度数 1 の語が多い。a b ン a b ン、a b リ a b リは、2 拍の基本部分にオノマトペ標識のついたものの反復形である。

延べ語数で上位にあるが異なり語数でそうでないものは a ン、a ン b リの 2 形式で「ちゃん」7、「ぼんやり」14 のように使用度数の高い語があるため、ここにあがった。

### 5.3 拍数の多寡

ここでは、分類一覧の形式を拍数の多寡によって整理し、異なり語数・延べ語数を集計する。その結果を表に示すと次のようになる。

表6 拍数の多寡による分類

分類 \ 拍	2 拍		3 拍		4 拍		5 拍		6 拍		7 拍以上	
	異	延	異	延	異	延	異	延	異	延	異	延
A	33	115	26	51	29	48	0	0	4	7	2	2
A B	2	3	59	85	155	382	4	4	23	29	5	6
その他	0	0	0	0	7	11	0	0	5	6	1	1
計	35	118	85	136	191	441	4	4	32	42	8	9

A形式の異なり語数は94、延べ語数は223である。AB形式の異なり語数は248、延べ語数は509である。

A形式では2拍のものが異なり語数・延べ語数ともに多く、3拍・4拍のものがそれに続く。2拍・3拍・4拍をあわせると異なり語数88、延べ語数214となり、A形式のそれぞれ94%、96%を占める。2拍の延べ語数が3拍・4拍と比べてはるかに多いのは、「きっ」23、「じっ」17のように使用度数の高い語があるためである。

AB形式では4拍のものが異なり語数・延べ語数ともに極めて多く、次に3拍のものが、3位に6拍のものが位置する。4拍のものはAB形式の異なり語数の63%、延べ語数の75%にあたる。4拍・3拍・6拍をあわせると異なり語数237、延べ語数496となり、AB形式のそれぞれ96%、97%を占める。4拍のものが多いのはabab、aッbりの2形式が多いことに起因する。6拍のものは主として3拍の反復形である。

全体で見ると4拍のものが多く、異なり語数191は54%、延べ語数441は59%にあたる。次に3拍のもので、異なり語数85は24%、延べ語数136は18%になる。4拍・3拍をあわせると異なり語数78%、延べ語数77%に至る。

## 6. おわりに

南吉童話のオノマトペをオノマトペ語彙辞典の見出し語や記述と比較し、語彙辞典に見出し語のないものを抽出して分析した。その結果、把握した特色は次のとおりである。

- (a) 語彙辞典に見出し語のないオノマトペは音を対象とする場合が多く、全体の三分の二に相当する。
- (b) 語彙辞典に見出し語のないオノマトペであっても、文脈の中で理解できるものがあり、作家が創造した特別なものではない。

南吉童話のオノマトペの形式をオノマトペ標識の有無、異なり語数・延べ語数の多いもの、拍数の多寡という観点から分析した。それをまとめると次のようになる。

- (c) 基本部分が1拍あるいはその反復で表せる形式は、オノマトペ標識として長音を持つ場合が多く、「イ」を持つことがある。基本部分が2拍あるいはその反復で表せる形式・その他の形式はオノマトペ標識として撥音を持つ場合が多く、「リ」を持つことがある。
- (d) abab形式は異なり語数全体の31%、延べ語数全体の26%にあたる。また、aッbり形式は異なり語数全体の9%、延べ語数全体の20%にあたる。この2形

式は、南吉童話のオノマトペの代表的形式である。異なり語数で上位にあるが延べ語数でそうでない a b n a b n、a b リ a b リ、aーッの 3 形式は、使用度数 1 の語が多い。

- (e) 基本部分が 1 拍あるいはその反復で表せる形式は異なり語数・延べ語数ともに 2 拍のものが多く、基本部分が 2 拍あるいはその反復で表せる形式は異なり語数・延べ語数ともに 4 拍のものが極めて多い。全体で見ると 4 拍のものが最も多く、異なり語数で 54%、延べ語数で 59% になる。次いで 3 拍のものが多く、4 拍・3 拍をあわせると異なり語数 78%、延べ語数 77% に至る。

ところで、丹野眞智俊 (2005) は天沼寧 (1974) のオノマトペ分類を基にして形式で分類し、次のように述べている。

- (f) 4 拍の a b a b 形式が最も多く全体のほぼ 3 割に見られ、次に a b ッ形式が多い。  
(g) 拍数では 4 拍のものが 5 割を占め、次に 3 拍のものが 3 割で、4 拍・3 拍で全体の 8 割も存在する。

丹野 (2005) の記述と比較すると、南吉童話のオノマトペの形式の特色として次の点が指摘できる。

- (h) 南吉童話では一般に存在する形式に比べて a ッ b リ形式の使用が多く、a b ッ形式の使用が少ない。  
(i) 南吉童話では一般に存在する形式に比べて 4 拍のものの使用がやや多く、3 拍のもの使用がやや少ない。

#### 〈注 記〉

注 1 〈オノ〉にのみ見られる 12 語は「あは」「かーっ」「ぐるぐる」「けろんけろん (けろん、以下括弧内に辞典の見出し語を示す)」「じゃばじゃば」「つっけんどん」「とてちてたー」「ぴーん」「ぴょくり」「ぶいぶい」「ぶくり」「ろくろく」である。「ぐるぐる」では南吉の作品 [14] 「あし」の例を引用している。なお、〈暮ら〉にのみ見られる 4 語は「ちょっきん」「ひょっくりひょっくり (ひょっくり)」「ふふふ」「わんわんわん (わんわん)」、〈現代〉にのみ見られる 8 語は「がーん (がーん)」「どぼーん (どぼん)」「はーっ (はー)」「はーっはーっ (はー)」「ふーっ (ふー)」「ぶーっ (ぶー)」「ぼー」「みしみしっ」で、〈現代〉では長音・促音のことが多い。

注 2 木魚の音を読点に従い「もく」1 語、「もくもく」2 語と整理した。「もくもく」



は語彙辞典に見出し語が立てられている。しかし、〈暮ら〉では「もくもく」を「煙や雲などが大量に発生し、勢いよく立ちのぼる様子。垂直に広がっていく感じがある」と説明し、「m-k」という子音の組み合わせをくり返した語は、内側から何かが込み上げたり湧き出たりしてくる様子を表すものが多い」と補足している。南吉の「もくもく」の用法は煙や雲の様子を表すのではなく、木魚の空洞から出てくる音を表すという点で新鮮である。

注3 「ぱりーん」について、長音を含まない形「ぱりん」が〈暮ら〉〈オノ〉にある。また、「すてんころり」について、促音を含む形「すってんころり」が〈現代〉〈オノ〉にある。

注4 先行研究において、オノマトペの形式を捉えるのに拍を基準にしている点は一致している。また、基本部分に促音、撥音、長音、「リ」「イ」を伴うという認識である点も一致している。しかし、基本部分の捉え方や呼称に違いがある。天沼寧（1974）では「ちん」「がり」のように「ン」「リ」を伴って二拍の形になる場合、「ン」「リ」も含めて基本部分と認定しているが、「がたん」「けろり」のように三拍になると「がた」「けろ」を基本部分としている。金田一春彦（1978）では基本部分が一拍・二拍の場合に語根と呼んでいる。田守・スコウラップ（1999）では基本部分を一拍の場合は基本形、二拍以上の場合は語基と呼んでいる。また、基本部分に伴う促音、撥音などをオノマトペ標識と呼んでいる。

#### 〈文 献〉

濱千代いづみ（2013）「南吉童話に見られるオノマトペの語彙と用法」『解釈』第59巻  
第11・12号 675集

飛田良文・浅田秀子著（2002）『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版

山口仲美編（2003）『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』講談社

小野正弘編（2007）『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館

鳥越信・向川幹雄・清水たみ子ほか編（1980～1981、1983）『校定 新美南吉全集』大  
日本図書

天沼寧（1974）『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版

金田一春彦（1978）「擬音語・擬態語概説」『擬音語・擬態語辞典』（浅野千鶴子編）角  
川出版

田守育啓、ローレンス・スコウラップ（1999）『オノマトペ 形態と意味』くろしお出  
版

丹野眞智俊（2005）『オノマトペ《擬音語・擬態語》を考える』あいり出版